

第210回

N-BIO バイオセミナー

長浜バイオ大学 命北館4F 中講義室⑤

9.24 火 15:20~16:40

さかなの色を細胞レベルで観賞する

はしもと ひさし
橋本 寿史 先生

所属・職位

リージョナルフィッシュ株式会社
研究開発部・主任研究員

専門分野

発生遺伝学

オーガナイザー

アニマルバイオサイエンス学科
竹花 佑介 先生

動物のからだの色は主に皮膚に存在する色素細胞によって決まります。哺乳類や鳥類の色素細胞はメラノサイト1種類であるのに対し、魚類のほとんどが3種類（黒色素胞（メラノサイトと相同な細胞）、黄色素胞、虹色素胞）以上の色素細胞を持っており、これが魚類の体色形成に大きく寄与しています。色素細胞の組成あるいは分布様式が種ごとにそれぞれ異なることが、魚類において種固有の多様な体色を生み出していると言えます。

本セミナーでは、動物の体色形成における色素細胞の役割とそのメカニズムについて概説します。次に、魚類において複数の色素細胞を生み出す発生遺伝基盤に関する最近の研究動向と、小生が提唱した『黒色素胞基本型分化経路モデル：黄色素胞や虹色素胞は黒色素胞から分岐して誕生したとするモデル』をご紹介します。さらに、自然界に見られる動物の体色変異の例を挙げながら、その原因となっている遺伝要因に触れ、それらの知見に基づく育種の取り組みについて解説します。

ご専門の研究分野を問わず、先生方、大学院生の皆さんを始め、学部学生の皆さんも多数ご参加ください！